

校内研修計画

甲州市立松里中学校

1 学校課題

学校教育目標「自ら求め、学び、拓く生徒の育成」を基に、教職員が一丸となり、主体的に学習活動に取り組む生徒の育成を目指している。生徒は、授業や生徒会活動にも意欲的に取り組み、自分の力を伸ばし、仲間の一員として活躍したいと思っている生徒が多い。授業には一生懸命取り組む反面、自分の思いを表現し、粘り強く学習に取り組むことには課題がある。毎日の振り返り学習として実践している「松中ノート」が定着していない生徒も少なくない。授業は学校生活における基盤として考えたとき、学習活動において生徒が主体的に学ぶ姿勢を養っていくことは、豊かな学校生活を送るための素地につながっていく。今年度、自ら求め、学ぶ生徒の育成について再確認し、職員の授業力の向上、ICTスキルアップを図り、学びの基盤づくりをしていきたい。

2 研究主題

「自ら求め、学ぶ生徒の育成」

～学習者主体の授業づくり・自己調整力の育成を目指して～

3 主題設定の理由

令和の日本型教育（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実）「一人一人が主語」である「学習者主体の授業」の日常化を目指していく。全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成していけるような「指導の個別化」を図りたい。また、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身、学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。「指導の個別化」と「学習の個性化」という二つの側面を踏まえるとともに、ICTの活用も含め、生徒が主体的に学習を進め、「学習者主体の授業」に向けて、それぞれが自分にふさわしい学習方法を模索し、自己調整していく態度を育成することを目指す1年としたい。

4 研究の具体的な内容と方法

(1) 甲州市夢をかなえる学びのプロジェクトとタイアップした研究

1) 好奇心を伸ばす探究学習の充実

松中ノートの取り組みを充実させていく。学び方等を教師から指定せず、生徒自身に自分に合った形を模索させ、前向きに取り組めるような、生徒にとって主体的・対話的で深い学びとなるようにしたい。興味のあるものに関して探究する「自己探究」的な形式にするなど、学校の教科の学習だけでなく、「夢をかなえる」ための「好奇心を伸ばす場」として松中ノートを活用し、「学びのつながり」「学びの広がり」「学びの深まり」を目指すことで、自分(らしさ)づくりにつながっていくことを期待する。

2) WEBQU の実施と結果分析

学級・集団づくりの質の向上のため、WEBQU を実施し、人やものを大切にする心を育てたり、仲間とのつながりを意識した学級経営を模索したりし、感謝(ありがとう)を伝え合える安心感や信頼性のある人間関係(相互依存できる関係)を構築させたい。

3) 授業の構造化への追求

生徒に身につけさせたい力を明確にし、「振り返り」を行うことで生徒が「めあて」に対して自分が達成できているのかを判断し、課題を明確にさせるところで、自己調整学習を進めながら、学力を定着させたい。また、これらが教員の授業改善(学習者主体の授業づくり)につながると考える。さらに、学びを深めるためのツールとして ICT 端末を活用し、授業の構造化をさらに進めていきたい。

(2) 本校独自の教育研究

1) 教師と生徒のウェルビーイングを実現するための1人1プロジェクト

松中で大切にしたい【5C】の観点を意識し、教師のウェルビーイングを実現するために、教師ひとりひとりが学校運営に対して自覚をもち、1つのプロジェクトを成し遂げる中で、自己肯定感ひいては自己効力感を高めていきたい。教師が主体的な気持ちで学校運営に携わることで、生徒のウェルビーイングの実現にもつながると考える。生徒にわくわくする活動をさせるために、教師自身がわくわくできるようなプロジェクトを模索していきたい。

2) ICT 端末を効果的に活用し、「複線化」を意識した1人1実践

複線化(「課題」×「活動」×「協働」)を意識した1人1実践を、単元や領域の流れが分かるような授業で設定する。学習ツールとして ICT 端末を効果的に活用する中で、学習者主体の授業の研究を進めたい。生徒が自分なりの学習課題を見つける場面、学び方を選択・決定する場面、自らの学びを振り返り、自己調整する場面を設けるなどの工夫を行うことで、一人一人が問題解決における目的意識をもち、問題発見・解決能力を伸ばし、「見方・考え方」を働かせことで言語能力を高め、それぞれの教科等の目標を実現するとともに、情報活用能力を向上させることを期待する。

3) 学びの基盤づくり

☆授業規律の継続指導

→「話をする人を見て話しを聞く」「場面に応じた声の大きさで話す」「時間を守る」「あいさつ・返事」

☆全校統一の授業評価シートの活用

→学年と教科のつながり(指導と評価の一体化)を意識しながら、全職員で指導にあたっていく

年間校内研修計画

回	月 日	曜	研究内容	備考
1	4月18日	金	昨年度の成果と課題, 今年度の方向性の提案	全体
2	5月13日	月	Q-Uの実施方法 (Q-U分析~6/14) ICT研修	全体
3	5月22日	水	Figjam研修	全体
4	6月10日	月	松中ノートの実施状況と課題	学年ブロック →全体
5	7月3日	水	QU分析①	学年ブロック →全体
6	8月23日	金	ICT研修 *必要に応じて変更	全体
7	9月17日	火	指導案検討①	全体
8	11月5日	火	Q-U分析② 指導案検討②	学年ブロック →全体
9	11月25日	月	研究授業【講師招聘予定】	全体
10	1月22日	水	成果と課題, 研究紀要について	全体
11	2月7日	金	研究紀要完成, 来年度の方向性	全体

(研究主任 竹川 佳那)